福成会の
ちょっと素敵な話

「待ってくれた」

No.13

「帰る！」

土曜開所日は、分場から移動して中心で給食を食べるが、食べ終わるとすぐＮさんの「帰る！」が始まる。

気持ちを伝えてくれているのだが、すぐにそういう訳にもいかない。

入職して八か月。今年の一月、初めてその光景を見た時は、先輩スタッフがＮさんと園庭に出て、芝生の上を一緒に歩いたり、小雪降る中追いかけっこをしたりして時間を過ごしていた。その光景は、積み上げて来られた関係性が感じられて、とても印象に残った。

自分には同じ支援はできない。

どうしよう。そして、次の土曜開所日。

普段から、時計とタイマーで自分の行動を形にしているNさん。とりあえず、それを持って行くことにした。それから小さなホワイトボード。

そして「帰る！」が出た。私は「みんなが　たべおわるまで　まちます。1じ5ふん　しゅっぱつ」とホワイトボードに書いた。Nさんは、声に出してその文章を読み上げた。少しは伝わったように思った。でも思ったより、しっくりいかなかった。

あとでよく見ると、Nさん愛用のデジタル時計は午前・午後表記で「1じ」という時間は存在しなかった。

「みんなが　たべおわるまで　まちます。1じ5ふん　しゅっぱつ」理由と時間。

時間は、その時々で多少変わるけど、同じ形を守って伝えてきた。
相変わらず「帰る！」から始まるけれど、その激しさや回数は減ってきたように思う。

そして、新型コロナウイルス感染症が５類感染症になり、晴れて活動として、近くの学校で実施するオープンカフェに行くことになった。久しぶりの外出。しかも飲食ができる。
車班と歩行班に別れていざ出発。
食べることが大好きなＮさんは先頭集団を歩いていた。無事到着し、コーヒーやジュース、お菓子をおいしく頂いた。そしてＮさんが「帰る！」と言った。
全体の様子を見て、先輩スタッフが「では、終わった人から靴を履きましょう」

と誘導してくれた。Ｎさんは席を立った。

私はゆっくり準備をする利用者さんの靴を履くお手伝いをして最後に出ようとした時、玄関にＮさんの姿があった。とっくに出たはずだった。そして私が、車班の利用者さんを先輩に引き継ぐ間も、静かに横に立って待ってくれていた。

今まで待てなかったＮさんが待ってくれた。

それは入職して半年たった五月の下旬だった。

「帰りましょう！」

私はＮさんに声をかけ、列の最後をゆっくりと歩いて帰った。